

発行日：2023年7月4日

岡崎がくどうの会だより

題字：自由王照平

第43号



発行：NPO 法人岡崎がくどうの会

【TEL&FAX】0564-32-0325

【E-Mail】okazakigakudou@yahoo.co.jp

6月4日(日)に第48回全国学童保育指導員学校が、現地とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催されました。NPO 法人岡崎がくどうの会からは、指導員28名、保護者4名が参加しました。今回は、感想を含めたレポートを一部ではありますが、紹介させていただきます。

他の指導員のレポートは、ホームページ(<https://okazakigakudou.jimdofree.com>)に掲載されています。お時間のある時にお目通しください。

次回は、第58回全国学童保育研究集会のレポートを掲載します。

【磯谷 舞美さん(あおぞらクラブ 非常勤指導員)】

理論講座4「しょうがいのある子の理解をふかめともにそだちあう」

今日の研修ありがとうございました。

全体会ではこれは女子、これは男子というように性別を自分が思った風に決めつけてはいけないのだと学びました。

先生のアイドルの話や、実体験の話とても面白かったです。

性の話は、知っているようで知らないことが多々あったのでとても勉強になりました。

学童保育の中でしょうがいを持っている子が増えてきていると聞いて驚きましたが納得しました。うちの学童保育にもしょうがいを持っている子がいるので、今や普通なのかなと思いました。健常児の子としょうがいを持っている子の扱い方の違いが分かりませんでした。お話を聞いて少しは分かったのかなと思います。

【伊藤 博華さん(風の子クラブ 非常勤指導員)】

実践講座9「しょうがいのある子どもをふくむ生活づくり」

今回の講義で、日本の性的同意年齢が13歳から16歳に引き上げられた事が報告されましたが、以前の講義で問題視されたので私も国会での決定を気にしていました。大きな一歩になったと思います。LGBTQIAの問題は日々変化進化していきます。6/27からの玉木先生の3回の講義、楽しみにしています。

3年前のコロナ禍に風の子クラブで働き始めた私は研修3年生です。以前6年間育成センターに勤務しておりましたが、研修、講義に出た事は一度もありませんでした。zoomでの研修が続いていました。今日やっと、木全先生の指導を対面で受ける事ができました。

たつや君の6年間の勝本指導員の実践記録。たつや君を取り巻いた6年間を見守り続けた事、凄いなとまず思いました。それは6年勤務している指導員が大勢はいないからです。そして勝本指導員は男性です。私は学童保育において、男性指導員は女性指導員と同じく大切な存在だと思います。たつや君にとって厳格な父だけが男性ではないと思えたであろう手助けをしたのが勝本指導員だったのではないのでしょうか？たつや君は自分が生き易くなるために、「なりきり」をしていたのではないかと思います。本当の自分を隠すために、「なりきり」をしていたのかもしれない。たつや君の家族、家庭環境を知ると、胸が痛くなりました。変えられるものではありません。この後、たつや君が健やかに育つ事を切に願います。たつや君の学童保育での思い出がきっとたつや君を支えてくれると思います。

木全先生の助言は優しく届きます。これからもご指導よろしく願います。

【加藤 優花さん(たけのこクラブ 非常勤指導員)】

基礎講座 1「学童保育の役割と指導員の仕事」

今回の講座のトラブルがあった時の対処に関してのお話では、「指導員はお互いの気持ちを知り、その上でどうしたら良かったのか一緒に考える」と学ばせていただきました。

子どもたちが喧嘩した時などに慌てずに対処できるようによく覚え実践したいと思いました。また、同じお話の中で、「子どもたちは楽しいから遊ぶ。一緒に楽しむことが大切」というお言葉もいただいたので、この部分も大事にしたいと思いました。

また、心に残ったお言葉は「子どもだけでなく親御さんとの連携や、心のケアも大切」。一朝一夕にできることではないけれど、毎日の積み重ねが大切を心に留めながら保育をする。

また、子どもや保護者の本当の願いと託される意味は何かを考えることも大切です。子どもだけではなく、保護者のことまで考えることで求められる指導員になることが出来るのではないかと思います。

また、しょうがいを持つ子どもや、特性を持つ子、配慮が必要な子の対応は他の子にも必要なこと。その子に大事なことは他の子にも大事なことです。のお話では、誰かを特別扱いせず、みんな一人ひとりを大事に思い自分に何が出来るか考えるということを実践していきたいと思いました。

以上のことを踏まえ、子どもの気持ちを汲み取り、寄り添った保育ができるようになりたいと思いました。

【鈴木 京子さん(風の子クラブ 非常勤指導員)】

基礎講座 1「学童保育の役割と指導員の仕事」

全体講演について、「ちょっと待てよ」まさしく私には関係のないことだと思っていたけれど、あれ！うちの問題でした。

現代に生きている限り社会に無知ではられません。

もっと社会に関心を持ち、学んでいかなければ...と反省しました。

一人ひとりの個性を大切にしていく社会で、多様な人とのつながりを持ち、そんな過去にとらわれない新しい価値観で生きていけば幸せな生活が送っていけると思いました。

午後の講座について、学童保育が子どもの人権を守り安全安心の場、子どもが素のままにいられる場であること。そのために必要なことは、保護者・学校・地域とのかかわりの大切さ、出欠安否の確認、子どもの表情や会話に気を配る等々。

たくさん学ばせていただきました。とても勉強になりました。

【伴 裕佳さん(あそびばクラブ 非常勤指導員)】

理論講座 5「子どもの発達をまなぶ」

ジェンダーについてもややもやと思いながら誰にも言えずに 1人で抱えている人はそんなに少なくなく、誰もが必ずしも同じ様に性について考えている訳では無く、子ども達に身近なところだと、母と父が居て子がいてという事が家族だというのは、子ども自身の今生きている環境からそう思うので当たり前だと思いますが、色んな家族の形があったり、多様な在り方があるのだと子ども達が少しでも知っていけると良いなと思いました。

第5講座「子どもの発達をまなぶ」について、ダメな事は勿論ダメと注意しなければいけないけれど、我慢出来た事を褒めて出来たという成功体験に繋げる事で、ルールやマナーについて出来る様になった事なんだと覚えていけたり、また、叩いてはいけないと当たり前の事だけどそのモヤモヤの気持ちを一体どうすれば良いのかということまで一緒に考えていけたらと思いました。

トラブルが起きた時に両者の意見を聞く事は心掛けているのですが、成長の観点から見ると自分で何が嫌だったか、どこが悪かったかを考えて伝えてどうすれば良いかを考える事の大切さを感じました。

出来なかった事が出来る様になった事をその過程の努力を考えて言葉にしてあげる事で、頑張った良かったと思えたり、壁にぶつかった時に頑張ったら出来る様になるかもという事に繋がり自主的に挑戦してみようという気持ちが成長に繋がるのだと思いました。

子ども達の考える時間を大切にサポートしていければと思いました。

【伊豫田 絢子さん（あおぞらクラブ 保護者）】

全体会「性（セックスとジェンダー）について考えよう

ー現代における多様性とその生涯発達ー」

男女平等や LGBTQ などの様々な人や考え方がある中で、今後、社会はどうあるべきか、古い考え方を変えていかなければ、社会、生活環境、子育て環境は良い方向へ変わっていかないのではないかと、この講座を聞いて思いました。

最後に講師の玉木さんは、自分は赤色が好きで、子どもの時赤いランドセルが欲しかったとおっしゃいました。息子は幼児の頃はピンクが好きで、ピンクのものを使っていたことを思い出しました。最近、なにかを選ぶときに「ピンク色は？」と聞くと「ピンクは女の子だから！」と言うようになりました。

私も、何気ない一言で「ピンクは女の子みただけどいいの？」と言ったことがあります。男の子みたい、女の子みたい、何気ない一言ですが、もしその一言で子どもの考えがカタよってしまうとすれば残念なことです。“好きなものは好き” それを受け入れ認めていく社会や環境を作るには、まず自分やまわりから直していかなくてはならないと思いました。

【吉川 美里さん（なかよしクラブ 常勤専任指導員）】

特別講座 11「学童保育と性教育」

まずはセクシュアルマイノリティに関して、圧倒的な日本の性教育の遅れを感じました。このことが、子どもたちにとって大きな影響をもたらしていると言えます。自衛のための教育となり、“大切な知識がないことで、いつの間にか加害者にも被害者にもなっていることがある”という言葉が非常に印象的でした。

同意がない 10 代の子の性被害の事例がありました。被害者はせっかく講師に相談出来たのにも関わらず、その先の相談出来る機関の『他人事のような対応の悪さ』に驚き、残念でなりません。10 代の子の被害は、表に出ている数だけでも想像以上に多かったです。怖いのは、加害者の多くが“知人”であるということです。これはしっかり頭に入れておくべき重要ポイントだと思いました。

他の地域の指導員から数多くの悩みや質問がありました。単純明確な答えがある問題ではないですが、子どもたちを大切に思い、みんな日々手探りで悩みながら頑張っていることが伝わってきました。デリケートな分野ですが、パーソナルスペースを侵害しないことや、いけないことはいけないとはっきり伝えること。（指導員も何をされても我慢しなくてはいけないのではなく）そして指導員に言いやすい環境作りをしていこうと思いました。

性教育に関しては、指導要領の問題があり、学校は踏み込むのが難しい現状。しかしその殻を破って、外部の人と協力しながら分かりやすく子どもたちに性教育（授業）している中学校の先生のドキュメンタリー番組を見たことがあります。まさしくこの分科会の内容であり、今からの時代は子どもたちを守るために教育者が積極的に立ち向かっていくべきだと思いました。

相手の気持ちになって考えられるよう、頭の柔らかい幼少期から“知ること”によって寛容になり、より良い社会に繋がっていくと思いました。

学校でも家庭でもない第二の家としての学童保育所。学童保育ではどんなことが出来るか、決めつけや偏見を持たず、子どもたちと向き合っていこうと思います。

性の多様性を柔軟に受け入れられ、世の中全体が理解していく必要があり、そのために決めつけや偏見のない社会、環境が大切だと感じました。

～編集者からひとこと～

今回の全国学童保育指導員学校の全体会では、「性教育」について学びました。「性教育」については、まだまだ日本では敬遠されがちだと思います。そんな日本社会のなかで、学童期の子どもたちと過ごす私たち指導員が、「性」について正しい知識をもち、「性教育」について捉え方や伝え方を学ぶことはとても重要なことだと今回の講演を聞いて感じました。同じように感じた指導員は、ほかにもいると思います。また、「性」の話についての講義は、ほかの研修会に参加しても、そう多くはありません。貴重な時間を指導員一同で共有できたと思います。

今回の講義で学んだことを、日々の保育で活かせるよう、指導員全員で努力していきたいと思えます。

【星野 友加里さん（あおぞらクラブ 保護者）】

理論講座 5「子どもの発達をまなぶ」

「言葉にならない思いや不安があることを想像し、代弁し、寄り添うことが大切」という言葉に共感しました。

代弁してあげることで子どもが伝え方を学び、伝えることで気持ちも楽になったり、得だという気持ちを育むことは、自分を守ることにもなるなと思いました。

よく子どもとの会話で何を言っているのかわからないことが多々あり、忙しかったりして何も考えず、まあいいやと流してしまうことがあります。普段の何気ない会話の中でもとても大切なことだと、自分の足りないところを再確認できました。

【遠山 祥子さん（つくしクラブ 非常勤指導員）】

特別講座 11「学童保育と性教育」

今回の指導員学校では私は学童保育と性教育について学びました。

日本では1日に66人の10代女子が妊娠、その6割が中絶。そして13人に1人の女性、67人に1人の男性が性的被害を受けた経験があるとのことでした。

ユネスコの性教育推奨年齢は5歳、日本の性教育はかなり遅れていると思いました。

自分の体に触られる事を嫌な相手に対して「NO!」と言えるように小さい頃から教育していく事が大切だと思いました。

小さい頃から性教育をすることで、将来の性犯罪が無くなる世の中になって欲しいです。そのために学童保育ではどう教育していくか？もし、子どもから性交渉について聞かれたら、ごまかしたり、そんなこと言っただけでいいと否定したりすることは良くないと先生はおっしゃっていました。「大事な人とするから気持ちがいいんだよ。だからそうでない人とはやってはいけない事なんだよ。とても大切な事だよ。」と隠さずにありのままを伝える事が大事だと学びました。しかし、私はそのような状況になった時に子どもたちにきちんと説明できるだろうか…？難しい課題だと思いました。

子どもたちとのスキンシップについても、高学年で膝の上に乗ってくるのはどうなのか？と言う事で、異性の場合は2年生までなどのルールをクラブで決めておくのと良いとの事でした。くっついてくる子をうまくはがしていくことが大事で、それでもくっついてくる子には、私とあなたは異性だからときちんと説明する。それでもくっついてくる子には、その子の背景に何があるのか？と視点を変える事を学びました。

その他にも、子どもたち同士や、子どもたちが指導員のプライベートゾーンをふざけて触ってくる事は学童保育の生活の中でよくあることです。その場合も毅然とした態度でやめさせるようにしなければならぬと思いました。

今回初めて性についての研修を受けて、大変勉強になり、そして考える事ができました。

私は学童保育の子どもたちが大好きです。愛情を伝えるため、受け止めるためにもスキンシップはとても大事だと思っています。

今回の研修で学んだことをきちんと考えつつ、臨機応変にその子その子の性格も考慮し、スキンシップも大事にしながら性との線引きを忘れずに、子どもたちに愛情を注いだ保育をしていきたいと思いました。

【鶴田 有佐さん（風の子クラブ 非常勤指導員）】

理論講座 6「子どもの生活とインターネット」

全体会ではセクシュアルマイノリティを詳しく教えていただきありがとうございました。見た目だけではわからないこと、決めつけないこと、大切なことを学びました。玉木先生の講義はすごく内容が濃く、わかりやすかったです。

6講座の西川先生の講義でとても印象に残ったのは『早くしなさい』はNGワードだ』という言葉でした。私は反省しました。頭では分かっているのに、忙しくて時間がない時に「早くしなさい」を口にしてしまっていました。親が子どもを「待つ」こと。子ども自身が考え、試行錯誤するうちに考える力が育つと知り、まず親ができるだけ口を出さず、待つことからはじめないといけないと思いました。